

め で る



「夏の宿泊研修・比叡山（大津市）にて」

2 スポットライト
在宅医療における全人的アプローチ

大津市医師会 学術部長・在宅療養推進部副部長
 医療法人西山医院 院長

西山 順博

Contents

4 特集
平成29年度 夏の宿泊研修 in 大津・湖南地域方面

12 「人」
 彦根市立病院 在宅診療科主任部長
 彦根医療福祉推進センター 所長 **切手 俊弘**

14 病院紹介
 医療法人社団仁生会 甲南病院

16 紹介
 滋賀医科大学男女共同参画推進室/
 滋賀県医師キャリア・サポートセンター

18 地域自慢
 滋賀医科大学の学章と比叡山

19 報告
 開催報告／参加報告

23 ご入会・ご寄附のご案内/
 家庭医体験学習のご案内／編集後記



在宅医療における 全人的アプローチ

大津市医師会
学術部長・在宅療養推進部副部長
医療法人西山医院 院長

西山 順博

2017年10月現在、滋賀県の人口は141.3万人（高齢化率は25.3%）、大津市は34.1万人（高齢化率は25.8%）。滋賀県の年間死亡数は12,507人（病院76.5%、自宅14.0%、施設7.5%）、大津市は2,924人（病院77.1%、自宅13.4%、施設7.1%）と年々増加していることは言うまでもありません。

一方、昨年実施された「滋賀の医療福祉に関する県民意識調査」では、人生の最期を迎えたい場所を自宅とする県民が41.9%に対して、実現困難と考える方が58.4%（実現可能：8.2%）との結果でした。これについての考察は、過去との比較も含めて、各々の市町にて必要ではありますが、我々としては、自宅で最期を迎えたいと思い、実現可能と考える方々から、在宅医療を提供することが望まれていると考えています。

病院医療は、キュア重視で命への支援をします。一方、在宅療養には、医療支援・介護支援・生活支援・生きがいの支援・こころの支援と5つの支援があり、ケア重視で生活の支援をします。在宅医療は、在宅療養に含まれ、従来の病病・病診・診診連携だけでは成り立たず、介護福祉職を加えた多職種で上手く交わり合うことが重要です。大津市では、2012年4月から「皆で支える在宅医療」として活動してきましたので報告します。

【理念「こころの平安」で 心をひとつにし、 「おうみ在宅療養連携シート」 で連携を】

大津市医師会在宅療養推進委員会にて承認を得て、2013年1月に産声をあげたシートです。病院医療が在宅療養へシフトしていく中で、介護福祉職を加えた多職種連携を推進していくため、介護福祉職の基本的な考え方となっている国際生活機能分類（International Classification Functioning, Disability and Health : ICF ; 2001.）に重きを置き、医療職と介護福祉職が共有できるシートです。ケアカンファレンス、退院時カンファレンス

おうみ在宅療養連携シート『こころの平安』 記載日 平成 年 月 日
記入者 所属

氏名 (様) 性別 (□男・□女) 電話番号 有効期限 (在宅療養開始日 平成 年 月 日)	住所・番 TEL FAX □M □T □S □H □J □日 □月 □年
医療機関と主治医 ① 病名 ① ② 療養 ② ③ ④ ⑤	医療内容 □看護(CV) □加齢・構装 □経管栄養(胃ろう・経鼻) □造瘻(人工・腹壁) □尿管療法 □インスリン(単位) □気管切開 □人工呼吸 □排泄物の処理 □留置カテーテル □吸引・吸引 □人工肛門 □腫瘍ケア その他()
担当ケアマネジャー 氏名 担当介護ヘルパー 氏名	身体状況 褥瘡有無(不明) 歩行状況() 寝たきり度 □自立 □半 □介 □全 □他 □C 認知度 □自立 □半 □介 □全 □他 □C 認知症周辺症状(言語・感情が認知症以外の疾患) □不安・抑鬱 □妄想 □異常な行動 □暴言 □徘徊 □介護への抵抗 □徘徊 □人の手助け □不潔行為 □暴言行為 □性的異常行動 その他()
地域連携サービスの利用 □有 □無	経済状況 □失業 □収入不足 □その他()
生活史・趣味・好きな事・得意な事・得意な最近出した事・困った事	家族の願い・希望 終末期や緩和ケアへの思い(年 月 日現在)
本人の願い・希望	家族の願い・希望 家族の介護力 社会的環境
活用しているサービス □訪問看護 □訪問入浴 □訪問看護 □通所看護 □通所リハ □ショートステイ □訪問歯科 □在宅療養管理指導(医・歯・薬・栄・畜) □福祉用具() □住宅改修 □その他()	家族の介護力 社会的環境
活動 運動(ウォーキング) 入浴(構装保持) 自給自足 コミュニケーション	生活の中でしている 目標
参加 家族(社会参加) 家族の希望を 含む	
災害時の対応	

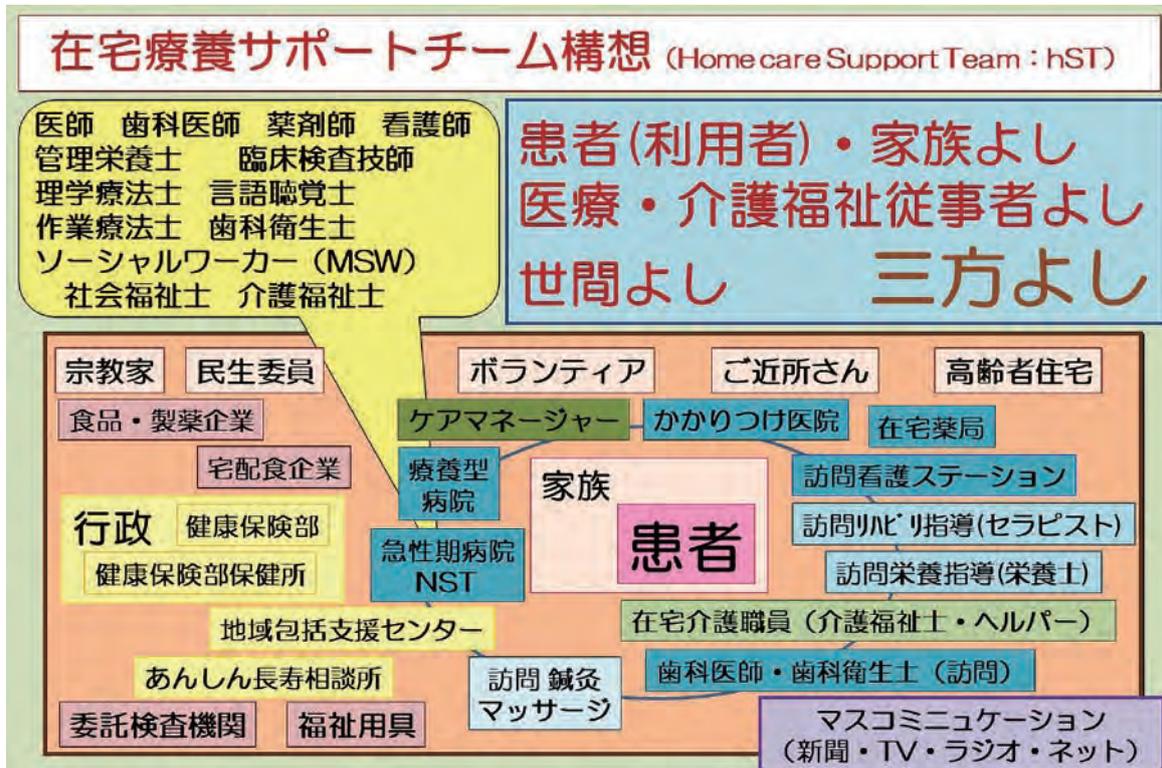
ス時に、ケアマネジャー（CM）かメディカルソーシャルワーカー（MSW）が作成します。在宅療養での情報が満載であり、訪問指導を行う医療職（歯科医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、管理栄養士、セラピスト（理学療法士、言語聴覚士、作業療法士）など）にとって、患者（利用者）の生活様様のわかるシートとなっています。各種後方連携パスの使用状況も記載でき、病病・病診・診々連携ともリンクできるように配慮しています。

また、終末期療養での人工栄養や、緩和治療などについての本人の思い、家族の思いも記載できるように工夫しています。「おうみ在宅療養連携シート」は多職種が関わるために、本人の医療情報（看護の情報）、介護福祉の情報を1枚のシートにまとめたものです。医療職と介護福祉職の銜（かすがい）になっていくものと確信しています。

【在宅療養サポートチーム (Home care Support Team:hST) 構想】

2012年10月、まずは大津京駅周辺からと考え、チーム大津京というモデルチームを結成しました。その後、大津には7つの地域包括支援センター（あんしん長寿相談所）があり、各々にすこやか相談所が併設されており、エリア毎に在宅療養サポートチーム（Home care support team : hST）を7チーム、2014年10月に結成することができました。事務局を地域包括支援センターが、リーダーをケアマネジャーが、サブリーダーを医師、歯科医師、薬剤師が担当することも決定しました。多職種の連携だけでなく、同職種の連携により、強固なhSTに発展し、大津市の高齢化率が27.0%になると予測されているOlympic year（2020年）には、地域が一つの大きな病院のように、いくつもの診療所（医科・歯科）、いくつもの薬局、いくつもの訪問看護ステーション、いくつもの居宅介護支援事業所、入院施設、療養施設が連携して、道は廊下で自宅が病室となり、自宅で安心して最期を過ごせる環境となることを目標です。

そして、2025年には、hSTに市民（住民）も巻き込み、地域包括システムの一部を担うことを望んでいます。



平成29年度夏の宿泊研修

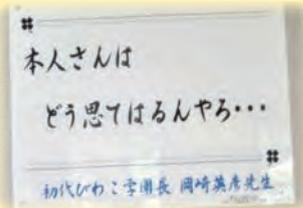
2017/8/22(火)・23(水)

大津・湖南地域

1日目

びわこ学園医療福祉センター草津

びわこ学園の概要や入所生活などの説明をうけた後、生活指導員の方の案内で施設内を見学させていただき、入所者の方々の生活を身近に感じることができました。



びわこ学園の中がひとつの街のようになっていて、医療施設としての側面と、障がいのある方たちの生活の場としての側面の両方を併せ持っているということがわかりました。びわこ学園は大学のすぐそばにありますが、内部の様子がどうなっているのかは知らなかったのので、今回見学させていただけてよかったです。(看護学科2年)



草津総合病院
済生会滋賀県病院
(車窓から見学)

滋賀県庁

健康医療福祉部からの説明の後、県庁内を見学させていただき、特別に県議会が行われる議場に入れていただきました。



大津赤十字病院

病院の概要や災害拠点病院としての役割などご説明いただいた後、「3.11初動の記録」をDVD観賞しました。その後、本学卒業生の医師・看護師との座談会や、救急外来や備蓄倉庫など施設案内をしていただきました。



今回の研修で何よりも楽しかったことは、大津赤十字病院で働かれている滋賀医科大学の卒業生である現役医師の方と色々お話をさせていただいたことです。中でも「学生時代にもっと勉強しておけばよかったと思うが無理だったと思う。でも今、患者さんを実際に目の前にすると、その人のために一生懸命勉強しようと思うし、勉強している。」という言葉が心に残りました。
(医学科1年)

比叡山延暦寺



方面での宿泊研修を実施しました！



実際地域の研修では訪れた事がある所もいくつかありましたが、住んでいても中々行かなかったりする所もありとても新鮮でした。普段は入れない議会を行う場所に入れたり、非常に貴重な経験をさせて頂きました。
(看護学科2年)

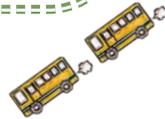
三井寺・大津市歴史博物館

三井寺の境内を散策し、大津市歴史博物館を訪れました。写真や文献から大津の歴史を辿ることができました。



研修では滋賀県のような医療現場を見学させていただけるだけでなく、滋賀の文化や歴史を知る機会も得ることができ、他県出身の私にとって滋賀のことを学び、経験する非常に良い機会となりました。

(医学科1年)



交流会（近江勸学館）

〔第1部〕市立大津市民病院訪問看護認定看護師・和田幸子氏から「大津市の訪問看護の実情」、西山医院院長・西山順博先生から「在宅医療における全人的アプローチ」と題してご講演いただきました。

〔第2部〕研修先の職員の方々や里親、プチ里親の方々と食事をしながら情報交換を行いました。



「チーム大津京」は、大変素晴らしい取り組みだと思った。一つの典型的な例として他地域でも形を変えて利用できる考え方ではないだろうか、と考えさせられた。こうしたことを考えることを基盤にしつつ、地域医療を理解できる医師になりたいと思った。
(医学科4年)

これからの在宅医療には医師や看護師に加え、介護士やケアマネージャーなどの福祉分野の専門職とも十分に連携していくことが必要であると学びました。(看護学科4年)



2日目

横川霊安墓地

しゃくなげ会にゆかりのある阿弥陀堂を始め、根本中堂などを見学し、滋賀医科大学霊安墓地を訪ねました。

滋賀医科大学の解剖体慰霊碑も見に行くことができ、看護学科の私にとってはとても貴重な経験となりました(看護学科は全員では行かないので)。改めて、この滋賀医科大学は地域の人々に支えられて成り立っているのだな、と強く感じました。
(看護学科2年)

今回も、地域の方々をはじめたくさんの医療関係者等の方々にご協力いただき、学びの多い研修となりました。
ありがとうございました。

訪問先の皆様からのメッセージ

宿泊研修を受け入れて

びわこ学園医療福祉センター草津
看護部長

逸見 聡子

気温30度を上回る8月22日、研修生や先生など25名の方が来園し、2班に分かれて施設内や利用者の方の生活の様子を紹介させて頂きました。

当センターは医療と福祉を兼ね添えた施設であり、平成29年で創立54年、草津市に移転し26年になります。滋賀医大から歩いて10分程のところに当センターがあるのですが、重症心身障害児の方が生活している施設の見学は初めての方が多かったように思います。

病棟では、人工呼吸器をつけた寝たきりの重症心身障害児や、ユニットで生活をされている方の生活空間を見ていただき、言葉を発しない方へのコミュニケーションのとり方や異常の早期発見方法、日中活動の取り組みなど、日々の細かい観察や継続した関わりの大切さについて説明させて頂きました。短い時間ではありましたが施設内の木のぬくもりと、利用者さんの温かい笑顔と、人とのふれあいを感じていただけたのではないのでしょうか。

また、滋賀県の重症心身障害児者の現状について、在宅で生活している人は重度の障害のある方が多いことや、医療的ケアの高い子どもたちが増えていること、小児在宅体制整備事業の取り組みなどを説明させて頂きました。今後、重症心身障害児者が普通のくらしを社会で続けていくためには、地域の中での医療従事者の活躍が期待されます。

「この子らを世の光に」を提唱したびわこ学園創設者糸賀一雄は、「すべての人間は生まれたときから社会的存在なのだから、それが生きつづけていくかぎり、力いっぱい生命を開花していくのである。」と述べています。

今回、研修に参加された学生さんの多くは、これから色々な試練が待ち受けていると思いますが、挫けることなく自分の持てる力を十分発揮して多くのことを学び、そして人の気持ちを大事にできる熱いところを持った医師・看護師になっていただきたいと思っています。



交流会に参加して



医療法人 明和会 琵琶湖病院 副院長 **松田 桜子**
(滋賀医科大学医学科13期生)

29年8月の夕方、仕事終わりに車で近江神宮まで走りました。当院は坂本にありますので、近江神宮はすぐ近くです。現在6年生の学生二人の里親を引き受けてから、なかなか交流会にも参加ができず、でも近江神宮なら仕事帰りにいけるから、と参加したのです。いつもお世話になっている西山先生の講演で勉強し、あと皆さんと食事を食べながらの交流。私たちのときも自分を含めて様々な経歴をもった学生がおりましたが、現在も様々な方がおられることに感じました。経験をつんだ方も、高校卒業してすぐの方も、医学生としてフレッシュな感性でどなたもがんばっておられ、頼もしかったです。事務局の方と私の出身高校が同じであることがわかったおまけもつき、若々しい気持ちに包まれた時間でした。有り難うございました。

滋賀県健康寿命推進課 課長 **北川 信一郎**

22日の夕刻の座学研修会と交流会に参加させていただき、とても幸せな気分になりました。それは、この1泊2日の宿泊研修の企画運営に関わられた教職員の方々の思いが心に伝わってきたからです。

学生さんたちが地域医療の現場に出た時に、今、どのような経験をしておくことが、彼らの成長につながるのか、かなりの時間を費やして企画されたのだらうと思いました。

座学研修会では、地域での医療の実践のみならず、多職種が連携した「仕組みづくり」がいかに重要なのか、学生さんたちの心に深く刻み込まれたと思います。

学生さんたちの生き生きとした姿を目の当たりにし、医学部の講義とは少し趣の異なったこうした地道な取り組みが、これからの滋賀県の地域医療を支えていく大きな力となるのだと確信しました。

みなさんの活躍を祈念しています。

滋賀県健康寿命推進課 主任保健師 **小林 亮太**

交流会1部では、地域医療について講演いただき、とても勉強になりました。

学生の皆様にとっても、いつもの実習とは違う空気感で、地域医療について知ることができ、多職種連携の大切さを学ぶことができる良い機会であったと思います。交流会2部の懇談会では、学生の皆様が先生方に積極的に質問し、自分の将来のことを話されていました。それぞれの目指す姿が明確になる機会であったことと思います。貴重な機会に参加させていただき、ありがとうございました。

先輩からのメッセージ

大津赤十字病院 医師 **古閑 愛理**
(滋賀医科大学医学科34期生)

私は大津赤十字病院、消化器内科で勤務しています。
大津赤十字病院は三次救急までの受け入れを行っている、700床を超える滋賀県で最も病床数の多い病院です。Common diseaseから、全身熱傷のような超重症患者まで様々な患者さんを受け入れています。初期研修医は大学よりもやや少なく、ほぼ毎年15人前後ではありますが、人数が少ない分、お互いに協力し、日々切磋琢磨しながら働いています。当院の特色としては、救急症例が多いことが挙げられます。救急医療に携わりたいと考えている方は、是非当院で一緒に働きましょう！研修先を迷うことも多いと思いますが、学生の皆様が充実した初期研修医生活を送れるよう願っています。

大津赤十字病院 医師 **成田 雄亮**
(滋賀医科大学医学科35期生)

滋賀医科大学出身の当院の研修医がここ数年ゼロとなっており、さみしく思っておりましたのでこの場をかりて当院の紹介をさせていただきます。病床数が800床程度あり、研修中に担当患者さんがいなくて困ることはありません。また研修医の数も16人と市中病院の中では多い方で、全国の大学から集まってきたおり色々な大学や病院の情報を得ることができます。初期研修2年間を通して当直帯を含めた救急対応、病棟急変対応を学ぶことができ、緊急時の対応にも自信をつけることができます。またやる気さえあれば、やってみたい手技・経験してみた症例についても科の垣根をこえて指導してもらうことができ、先輩医師もわからないことがあればいつでも相談にのってくれますので、意欲さえあれば多くのことを学べる環境は整っているのではないかと思います。是非大津赤十字病院で一緒に働きましょう!!

大津赤十字病院 看護師 **東谷 果林**
(滋賀医科大学看護学科20期生)

先日は座談会に参加していただきありがとうございました。私は学生の頃から救急看護に憧れを抱き、大津赤十字病院を希望しました。楽しいと思うことがある反面、苦勞することもたくさんあります。憧れがあっただけで本当に自分に合っているのかと入職当初は悩むことも多々ありました。しかし、先輩方が親身になって指導、サポートしていただいたおかげで、今は充実した日々を送ることができています。たくさんある病院の中から1つの病院を選択するのは難しいと思います。私もあらゆる病院の見学や体験に参加させていただき決めました。学生生活の経験の中で自分のやってみたい看護は何か、またそれが実現できる病院はどこなのかを考えてみてください。将来皆さんがやりたいと思う看護を実現できることを願っています。



大津赤十字病院で働く先輩を囲んでの座談会の様子

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科第4学年 木内 亮平

宿泊研修には、1年次より参加させていただいております。今回は、湖南地域ということで、私自身の地元であります。新たな発見・学びがたくさんありました。

身近であるのに行ったことがなかった、びわこ学園・大津赤十字病院を訪問させていただくことができました。びわこ学園では重い障がいを持つ方々が生活しておられ、その方々が安楽に過ごせるような工夫が随所にみられました。重い障がいを持って懸命に生きておられる姿を目の当たりにして、生きるこの意味や医療福祉について深く考える機会をいただきました。大津赤十字病院では、赤十字病院が災害医療の最前線で活動しておられる姿をビデオで拝見して、災害において病院が果たす役割について知ることができました。

そして、医学の発展・教育のためにご献体いただいた方々が眠っておられる比叡山延暦寺の滋賀医科大学霊安墓地へお参りをすることができました。ご献体していた方々の崇高な思いに応えられるような医療者になるという思いをあらたにしました。

この研修で多くの方々からお話を伺うことができ、貴重な経験をさせていただきました。ご支援・ご協力をいただきました皆様に深く御礼を申し上げます。



▲大津赤十字病院

滋賀医科大学 看護学科第2学年 池田 茜

前回春の宿泊研修に参加出来ていなかったのですが、今回是非とも私の地元である大津市についてさらなる学びが出来たらと思い、参加させていただきました。

実際地域の研修では訪れた事がある所もいくつかありましたが、住んでいても中々行かなかったりする所もありとても新鮮でした。普段は入れない議会を行う場所に入れたり、非常に貴重な経験をさせていただきました。

病院研修では大津赤十字病院やびわこ学園などを見学でき、災害医療の取り組みであったり、高度医療を提供されている実態を学ぶことが出来ました。少しずつ自分の看護師としてのイメージ像が浮かびつつあると感じました。

他の学生の方々と学年・学科関係なく交流することができ、大津市について理解が深まる宿泊研修でした。また次回も機会がありましたら、参加させていただきたいと考えています。

本当にありがとうございました。

滋賀医科大学 看護学科第2学年 丸山 晃帆

今回で4回目の里親宿泊研修の参加となりました。今回は、バスから降りて徒歩での散策が多かったので、地域の様子を肌で感じる事ができたような気がします。施設見学では、びわこ学園が印象に残っています。びわこ学園の中がひとつの街のようになっていて、医療施設としての側面と、障がいのある方たちの生活の場としての側面の両方を併せ持っているということがわかりました。びわこ学園は大学のすぐそばにありますが、内部の様子がどうなっているのかは知らなかったのですが、今回見学させていただいてよかったです。



◀びわこ学園
職員さんが手作りされた
介護のための補助器具

滋賀医科大学 医学科第1学年 福村 真優

私は滋賀県出身ではなく、滋賀のことを全然知りませんでした。せっかく滋賀の大学に来たのだから滋賀のことを知っておきたい、その上楽しそう、と思い、宿泊研修に参加させていただきました。

大津は、近所の人との関わりが薄まっており、滋賀県他の多くの地域とは異なる問題に直面している、ということを知りました。それぞれの地域、患者さんに合った医療を提供するために一生懸命なお医者さんや看護師さん、そして県庁の方のお話を聞いて良かったです。

今回の研修でお世話になったすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。次回からもぜひ参加させていただきたいです。

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科第1学年 赤羽 紗由美

縁があって滋賀に住むことになったものの、滋賀について何も知らないなど何となく感じたことが宿泊研修に参加した理由でした。びわこ学園や滋賀県庁での公衆衛生の仕事現場、大津赤十字病院など存在は知っていたもののなかなか見学する機会がなかった医療現場を見学させていただけたことで、自分がどのような医師になりたいかを改めて考えるよい機会となりました。また実際に大津市で働いている看護師の和田先生、医師の西山先生のお話を聴いて、医療に恵まれていると言われる大津市でも問題を抱えているということも私の新たな知見となりました。研修は滋賀の医療を知るだけでなく、三井寺や比叡山延暦寺など滋賀の魅力も楽しむことができました。参加したきっかけは何となく、滋賀のことを知れて楽しそうだからという漠然としたものでありましたが、この研修で滋賀のことを少し知ることができ、また自分がどのような医師になりたいかを考える機会にもなり、参加してとてもよかったと感じています。

滋賀医科大学 医学科第1学年 森 優也

大津市での在宅医療や訪問看護について、西山先生、和田先生からお話を伺うことができたことが印象的でした。

ちょうど前週に早期体験学習で膳所の診療所での訪問診療、訪問介護の同行をさせていただいたため、両先生のお話が自分の知っていることと重なっていてイメージしやすい部分がありました。一方で、主体となる医療機関、医師、看護師の方が違うことで、実施される在宅医療・看護が違ってくるということも学ぶことができました。特に、西山先生の胃ろうに関する考え方は、自分にとっては、とても新鮮に思えました。講演後の交流会では西山先生と直接お話しすることができ、貴重な時間となりました。



▲三井寺散策

滋賀医科大学 看護学科第2学年 服部 友里亜

今回の研修でもたくさんの経験をする事ができました。特に印象に残っているのは、大津赤十字病院です。私は救急や災害看護に興味があったので、見学させていただけてよかったです。実際に大規模な災害が起こったときにどのように活動していたのかということも動画で見せていただくことができ、今までは曖昧だったものも明確になりました。より一層興味深くなりました。

また、滋賀医科大学の解剖体慰霊碑も見に行くことができ、看護学科の私にとってはとても貴重な経験となりました(看護学科は全員では行かないので)。改めて、この滋賀医科大学は地域の人々に支えられて成り立っているのだな、と強く感じました。

今回もたくさんのことを学ぶことができ、とても有意義な2日間となりました。ありがとうございました。また次の研修にも参加しようと思います。

滋賀医科大学 看護学科第4学年 浅沼 莉衣

私が宿泊研修研修に参加させて頂くのは、3回目となります。今回は、びわこ学園や大津赤十字病院、比叡山延暦寺、滋賀県庁などの見学をさせて頂きました。西山先生のご講演では、これからの在宅医療には医師や看護師に加え、介護士やケアマネージャーなどの福祉分野の専門職とも十分に連携していくことが必要であると学びました。また、びわこ学園の見学を通して、障害を持つ方々との接し方や共に暮らしていく方法について、もっと考えていく必要があると感じました。今回も貴重な経験をさせていただき、有難うございました。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 石崎 真美

地域医療実践力育成コースを受講しており、そのコースのプログラムの1つであることをきっかけに、今回初めて研修に参加しました。研修の内容をあまり知らず当日を迎えたのですが、地域理解・交流事業というテーマのもと大津市の在宅医療の実情を講演や交流会で学び、充実した2日間を過ごしました。



▲交流会の様子

宿泊研修に参加して(学生の声)



▲滋賀県議会議場にて



▲滋賀県庁

滋賀医科大学 医学科第1学年 井上 愉理靖

『学問なき経験は、経験なき学問に勝る。』学問の苦手な私にとってまことにありがたい訓示であり、今回参加した理由も今回の経験が何かしら愚鈍な自分の将来の一助となるのではないかと淡い期待を抱き参加させて頂きました。里親研修では滋賀県の様々な医療現場を見学させていただけるだけでなく、滋賀の文化や歴史を知る機会も得ることができ、他県出身の私にとって滋賀のことを学び、経験する非常に良い機会となりました。今回の研修で何よりも楽しかったことは、大津赤十字病院で働かれている滋賀医科大学の卒業生である現役医師の方と色々お話を頂いたことです。何をして日々働いているか、どんなことにやりがいを感じているか、何故その科に進んだのか。忌憚なく話していただき、中でも「学生時代にもっと勉強しておけばよかったと思うが実際には無理だったと思う。でも今、患者さんを実際に目の前にすると、その人のために一生懸命勉強しようと思うし、勉強している。」という言葉が心に残りました。

現場の若手の医師とお話できる機会はなかなかないと思うので機会があればまた参加させていただきたいと思います。

滋賀医科大学 医学科第4学年 高田 正浩

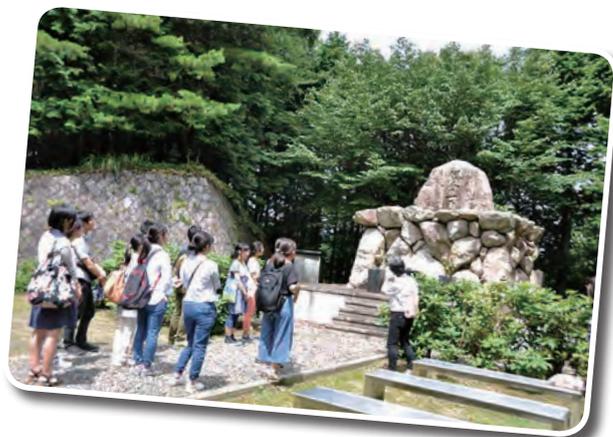
今回里親宿泊研修に参加させていただいて、強く感じたのは、地元とはいえ、まだまだ知らないことが大いにある、ということだった。僕は今回研修で回った地域がまさに出身で、それを知った時は少し物足りないような気がしたが、実際には訪れたことの無い場所も多く、ましてや、その地域で働く医療人の先生方が日々どういったことに悩まれながら医療を行っているのか、ということなど全く知る由もなかったため、今回の研修に参加して良かった、と思えた。僕が特に印象的だったのは西山先生のご講演で、「チーム大津京」は、大変素晴らしい取り組みだと思った。僕は以前に、今回訪れたびわこ学園での小児医療ボランティアに参加させていただいたことがあったが、そこでもやはり、医師はもちろん、介護士様、看護師様、養護学校の教員様方が協力しあって障害をもつ子供たちをサポートしておられた。地域医療においても、多職種連携をどう形にしていくかが、ポイントになってくると思われるし、「チーム大津京」は一つの典型的な例として他地域でも形を変えて利用できる考え方ではないだろうか、と考えさせられた。こうしたことを考えることを基盤にしつつ、地域医療を理解できる医師になりたいと思った。

滋賀医科大学 医学科第1学年 清原 華也

この度は貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

私は大阪府出身で、滋賀県のことを知りたいと思い、研修旅行に参加させて頂きました。滋賀県庁では医療や福祉を支えている機関について教えて頂き、議場も見学させて頂きました。また懇談会では、先生方や先輩方とお話し、交流を深めることができ、楽しい時間を過ごさせて頂きました。

今回の研修を通して、私はこの地、人に支えられて医師になるのだと改めて感じました。次回以降の研修にもぜひ参加させて頂き、滋賀県の魅力を知って滋賀県をもっと好きになっていきたいです。



▲比叡山滋賀医科大学霊安墓地にて

Interview

彦根市立病院 在宅診療科主任部長
彦根医療福祉推進センター 所長

切手 俊弘



“まっすぐ”でなくてもいいじゃない!

はじめに

私は1997年に大分医科大学（現在の大分大学）を卒業しました。卒後20年が経過します。私は大学に入る前に受験浪人をして、大学でも留年も経験し、医師国家試験も2回受けて、“よりみち”をして医師になりました。そして、その後の人生もたくさんの“よりみち”をやってきました。人にはいろいろな道があると思います。今回、私の“よりみち”医師人生を紹介いたします。

研修医のころ

当時は卒業と同時にそれぞれの教室に入局する時代でした。私は学生時代から大分医科大学第1外科（現在の大分大学消化器外科）に入局を決めました。卒後1年目の研修を出身大学の附属病院で修了しました。朝7時から深夜24時頃までの平日勤務、週末は当直アルバイトで本当にあっという間の1年でした。当時は研修医教育などというカリキュラムも十分でない頃でしたが、講師の安達洋祐先生（現在は久留米大学 教授）に接遇から手術の手順まで、丁寧に教えていただきました。今でもその時の研修ノートは保管しており、困ったときに見直すこともあります。

卒後2年目を民間の病院で研修した後、卒後3年目は飯塚病院（福岡県）で外科手術、救急、麻酔を勉強させていただきました。わずか1年ではありましたが、本当の救急病院で、緊急手術もたくさん経験できました。20年間を振り返り、一番いろいろな症例をみることができたと思います。



▲研修医になったばかりの同期での開業医見学
（左上が安達先生 筆者は右から2番目）

「創傷」管理との出会い

卒後4年目に医師会病院（大分県津久見市医師会立津久見中央病院）に赴任しました。当時の院長より「切手君、褥瘡の治療を真剣にやってみないか」といわれました。その頃、褥瘡は寝たきりになれば、自然にできてしまい、治らずに亡くなっていくといわれていた時代だったので、その治療方法などほとんどわかっていませんでした。外科で培った創傷治療の理論を基に、試行錯誤で治療を始めたころを懐かしく思います。そして、初めてかかわった巨大な褥瘡が完治したとき、褥瘡治療をもっと勉強して、広めていこうと決心しました。現在でも、術後創傷管理や



▲病棟で褥瘡・栄養回診を始めたころ

褥瘡管理などについて全国で講演したり、創傷の執筆を行ったりして、創傷管理は私のライフワークとなりました。

外科医から内科医へ

約20年前、口から食事を食べられなければ胃瘻を造るというのが当たり前の時代でした。寝たきりの方を何が何でも元気にしようという風潮も強かったように思います。この頃から、高齢者で寝たきりの方を診療する機会が増えてきていました。

私は家庭の事情もあり、卒後10年目に外科医から内科医に転身し、岡山大学第2内科に入局し、開業医で勤務医として約8年間勉強させていただきました。そこで、高齢者を診ていく医療に本格的に関わるようになりました。

内科医になり、外来診療や内視鏡検査を行いながら、訪問診療を学びました。人が生活すること、人が生きること、亡くなるということを身近に感じることができるようになり、実は医療の本質はここにあるのかもしれないと思えるようになりました。

内科医から再び外科医へ

2015年1月、ご縁にて彦根市立病院に赴任することになりました。湖東地域の急性期病院で、救急患者も多く忙しい病院です。公立病院で私のような医師に何ができるかわからず、専門医をもっていた外科に転身し、手術や外来診療などに関わりました。内視鏡手術や化学療法が大きく進化したことを身をもって経験することができました。



▲診療所での写真撮影（10代の頃のフィギアスケート無良崇人選手と）



▲在宅で神経難病（ALS）患者の胃瘻から内視鏡検査をしているところ

在宅医療を地域で広める活動

彦根にきて1年が経過したころ、金子隆昭院長より「当院で在宅医療をやろうと思う。ぜひ進めてもらえないか」といわれ、2016年4月より公立病院で訪問診療ができる在宅医療支援室を新設しました。その後、診療科として在宅診療科を院内標榜し、現在に至っています。

現在、病院の中では、在宅診療科として訪問診療や入院患者の診療を行っています。また、病院以外では、彦根市、多賀町、愛荘町、甲良町、豊郷町の医療福祉を総括する彦根医療福祉推進センターで仕事をしており、地域医療や地域連携、在宅医療、在宅看取りなどを推進する活動をおこなっています。医師でありながら、医師でないような仕事もやっています。どれも大変ですが、やりがいのある仕事ばかりです。

将来のことなど、わからない

20年前に、今の職場で仕事をしているとは予想もしませんでした。これからの10年後の自分の状況も全くわかりません。その時その時で生きていけば、また何か道が開けていくのではないのでしょうか。迷ったり、引き返したり、それも人生だと考えています。まずは、先に進んでみることです。いいじゃないですか、まっすぐ行かなくても。



▲在宅で褥瘡処置を行っているところ

医療法人社団仁生会 甲南病院

病院紹介

当院は昭和39年の開設後、平成11年新築移転を行い急性期及び慢性期に対応できる体制を京都府立医科大学・滋賀医科大学の協力を得て整えてまいりました。平成18年には日本医療機能評価機構から認定を受けております。

急性期医療として循環器科では心臓、末梢血管に対するカテーテル治療から動脈瘤手術などの外科的治療も行っております。消化器科では内視鏡検査・治療から腹腔鏡下手術を主体とした外科的治療など、いずれも最先端の低侵襲治療を行っております。整形外科では骨折治療から人工関節、脊椎手術に至るまで種々の疾患に対しての治療を数多く行い、リハビリテーションの体制も完備しております。非常勤医師による専門外来も充実し、高磁場MRI装置を含めて他施設に劣らぬ診断体制を整えております。

地域包括ケアシステムの構築に協力すべく、在宅医療支援センターこうなんを平成28年8月1日に開設し、地域の皆様に安心して在宅医療を受けて頂ける体制の強化も行っております。今後、健診、透析治療にもより一層力を注ぐ方針としております。

理事長メッセージ

昭和39年8月1日に開設されてから今に至るまで、現会長磯矢良の思いを引き継ぎ地域医療を実践しております。「医師になり、いつからか仁という字に特別な思いを持つようになった。慈しみ、思いやりのある医師、病院としてやって行きたい。仁に生きる、仁生会」会長の思いは地元の皆様に浸透しています。患者さんは人です。病気を診るのではなく人を診る。全人的医療が私達の目指す医療です。急性期・慢性期の患者さんを治療する中で、患者さんやご家族のところに深く関わり、もっと人を癒せるようにと努めております。臨床心理士の働きや延暦寺ご住職による院内法話会も、人をもっと癒すための力です。病院にはまだまだ出来ることがたくさんあります。既成概念にとらわれることなく、これからも人を癒す医療機関として成長致します。



理事長
古倉みのり



病院概要

施設名：医療法人社団仁生会甲南病院
所在地：滋賀県甲賀市甲南町葛木958
TEL：0748-86-3131
FAX：0748-86-4131
URL：http://www.kohnan-shiga.or.jp
Mail：info@kohnan-shiga.or.jp

診療科

内科、消化器内科、循環器内科、呼吸内科、糖尿病・代謝内科、腎臓内科、神経内科、女性内科、血液内科、外科、消化器外科、呼吸器外科、肛門外科、乳腺外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、婦人科、放射線科、麻酔科

併設事業所

血液浄化センター
健診センター
訪問リハビリテーション事業所
在宅医療支援センターこうなん
訪問看護ステーションこうなん
居宅介護支援事業所
ひまわり保育園（職員託児所）



院長メッセージ

当院は甲賀市南部、三重県伊賀市に隣接し新名神高速甲南インターチェンジより車で5分の位置にあります。

昭和39年8月1日甲南町立甲南病院廃止後、現会長磯矢良により甲南病院として開院されました（病床数50）。以後移転、増床を行い、現在急性期病床100床、医療療養病床99床 計199床による診療を行っております。

地域の皆様の安心・信頼・満足を得られる努力を行うことを病院理念とし、関係大学の協力を得て質の高い医療を提供する体制となるよう絶えず努力しております。

平成22年6月に健診センター、平成23年6月に血液浄化センターを開設しました。

地域包括ケアシステムの拡充のため訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所を統括する在宅医療支援センターこうなんを平成28年8月に開設しました。

当院は急性期医療から慢性医療、在宅医療、予防医学など担うべき医療は多く、さらなる地域の皆様、関係医療機関などの信頼を得るために一緒になって当院の医療を支えていただくスタッフをお待ちしております。



院長
渡田 正二



看護部メッセージ

仁生会 甲南病院は、地域完結型医療に向けて、医療の質や地域ケアの質を高めるための取り組みを活発に行っております。

「専門的知識と技術、温かい心で患者さま中心の看護を提供する」を看護部理念にあげ、「看護でつなぐ病院と地域」をモットーに「形のない看護を形にする、魅せよう看護のチカラ」というスローガンのもと一同で団結しております。多職種の活動をコーディネートする役割として、看護部が起点となり、医師のサポートを含めチーム医療を推進し、患者さんを支えています。

これからの日本の医療を担う医師や看護師を目指す学生のみならず、明るい未来に向かって一緒に働きませんか!?

見学は随時受け付けております。

★新人教育

看護部はもちろんのこと職員全体で新人教育に力を入れております。

入職時から仲間として関わり、人を育てる職場風土創り、患者の方向性に合わせた看護の展開、みんなで応援し支援しその体制作りに励んでいます。急性期医療から在宅医療に至るまでの研修計画に沿った教育を実施し、PDCAサイクルを繰り返しながら毎年さらに改善を目指しています。

eラーニングの導入により新人も指導者も同じ技術を保てるよう環境を整えています。安心してお越しください。

★継続教育

2年目以降から退職するまでの全看護職員を対象に、経験年数別の研修を充実させています。日進月歩の医療に合わせて、看護師という専門職を全うしていくために、自分自身を振り返る時間を持つことも重要です。過去には患者疑似体験や在宅訪問等の体験型研修を取り入れ大変好評でした。これからも形式にこだわらない、様々な継続教育を実践していきたいと考えています。

一緒に学び続けましょう♪



看護部長
廣瀬 京子



滋賀医科大学男女共同参画推進室

滋賀医科大学では、男女共同参画推進室を設置し、仕事と家庭を両立するためのさまざまな取り組みを実施することにより、子育て中の女性医師をはじめ教職員のみなさまにとって働きやすい環境づくりを努めています。

◆ 滋賀医科大学医学部附属病院「女性医師支援のためのスキルズアッププログラム」 ◆

平成28年11月25日に、本学独自の「女性医師支援のためのスキルズアッププログラム」を設立し、離職した女性医師の医療現場への速やかな復帰を支援しています。



特徴

- 対象者が医療現場を離れている理由・期間を問いません
- 対象者は滋賀県だけでなく近隣の府県からも受け入れます
- 勤務希望の診療科について個別に相談し対応します

対象者	業務目的	業務内容
医療現場から離れているがスキルズアップを希望する女性医師	ライフスタイルに合わせた勤務形態により医療技術の向上を図る	診療科の診療業務に従事しながら自らの医療技術の向上を図る
勤務先	給与	職名
滋賀医科大学医学部附属病院 (診療科については個別に相談し対応する)	時間給 (2,000円)	診療登録医 (非常勤職員)
勤務時間	勤務期間	募集人員
月24時間以内 (平日日勤のみ、超過勤務は認めない)	年度ごとに契約更新する	5名程度
募集期間	応募方法	現在、2名の診療登録医が活躍しています！ 保育所の利用も可能です！
通年 (勤務開始予定日は個別に相談する)	募集要項に従って必要書類を滋賀医科大学男女共同参画推進室に提出する	

取材・座談会が行われました

平成29年12月19日(火)、本プログラムについて、尾松学長補佐(男女共同参画担当)及び診療登録医3名の先生方への取材が行われ、報道機関から新聞社3社とテレビ局1局が出席されました。

早速、夕方のニュース等に取り上げていただき、本プログラムについて周知する機会となりました。



尾松学長補佐(男女共同参画担当)と
診療登録医の先生方

平成29年12月に、本プログラムについての座談会を実施しました。医大ニュースVol.29(2018年3月発行予定)に掲載されますので、ぜひ、ご覧ください。

(<https://www.shiga-med.ac.jp/introduction/pr-magazine>)

診療登録医を経て特任助教に採用

診療登録医1名が、本プログラムを経て、平成30年2月1日付で、本学特任助教として採用されました。引き続き、医療現場への復帰を希望される先生方を支援してまいります。

詳細等は、男女共同参画推進室ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

<http://danjokd.shiga-med.ac.jp/>



↑ トップページ左側のバナーをクリック!!

TEL:077-548-3599 FAX:077-548-3653 Email:hqdanjo@belle.shiga-med.ac.jp

滋賀県医師キャリアサポートセンター

(滋賀県地域医療支援センター) 当センターは滋賀県健康医療福祉部医療政策課と滋賀医科大学医学部附属病院に設置し、滋賀医科大学医学部附属病院には専任医師を配置しています。

先輩医師との懇談会

医師としてのキャリアアップや、仕事を続けていく上での色々な悩みなどを相談できる場として開催しています。自由参加ですので、ご興味のある方は、ぜひ、ご参加下さい。

- 平成29年度（第3回）●
平成29年10月23日(月) 18:00～
講師：家庭医療学講座
特任教授・総合診療部
部長 松村 一弘先生
テーマ：「総合診療専門医とは
－救急との連携－」



学生の感想

- ・総合診療医に関して改めて、どういふ事をカバーしてどのような役割を果たしているのかが分かって良かったです。
- ・総合診療のコアについてよくわかりました。働く場所によって呼び名が変わるといふ説明がすごく腑に落ちました。

- 平成29年度（第4回）●
平成29年11月14日(火) 18:00～
講師：きづきクリニック
院長 木築 野百合先生
テーマ：「専門医ではない外科医の立場」



学生の感想

- ・医師となつてからのキャリアをどうしていくのか、再考するきっかけとなりました。
- ・病後児保育について興味がわきました。
- ・大先輩のキャリアが聞けて大変参考になりました。

- 平成29年度（第5回）●
平成29年12月8日(金) 18:00～
講師：神経内科
特任助教 小川 暢弘先生
テーマ：「生まれ、育つた土地で医療に携わる喜びと責任」



学生の感想

- ・現実的な事についてもざっくばらんにお話をいただけて非常に参考になった。参加して良かったと思う。滋賀の魅力、滋賀医大の魅力が大いに伝わってきた。
- ・自分の生まれ育つた土地で働けるのは幸せなことだと思いました。責任を持って診療する一つの理由となる事が分かりました。

第6回滋賀県女性医師交流会

「女性も男性も楽しく働く!! ～キャリアアップも子育ても充実～」を開催しました。

主催 滋賀県女性医師ネットワーク会議



京都府立医科大学眼科学教室
外園 千恵 教授
演題：「女性医師支援の長い道のり」



パネルディスカッションでは卒業2年目3年目の4名の若手医師の先生方からキャリアアップや子育てへの考え、困っていること、将来への不安や目標をお話いただき、活発なディスカッションが行われました。

滋賀医科大学
尾松 万里子 学長補佐(男女共同参画担当)
生理学講座細胞機能生理学部門 准教授
演題：「滋賀医科大学男女共同参画推進室の取組～内閣府「平成29年度女性のチャレンジ賞特別部門賞」の受賞にあたって～」



医師交流会



お問い合わせ先 滋賀県医師キャリアサポートセンター
滋賀医科大学病院管理課内（外来棟 3階） 住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
TEL：077-548-3656 E-mail：ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp

～ 滋賀医科大学の学章と比叡山 ～



滋賀医科大学 学章

滋賀医科大学の学章は、昭和56年4月に京都市立芸術大学の舞原先生が作成されました。デザインの意味は、「さざ波の滋賀」と「一隅を照らす」を組み合わせたものです。

この「一隅を照らす」は、最澄（767-822）が、学生が学問を修めるにあたっての心構えを『天台法華宗年分学生式（山家学生式さんけがくしょうしき）』として朝廷に上奏したものに由来します。この文書では、司馬遷（BC145-87）の史記「田敬仲完世家」（紀元前91年ごろ成立）や湛然（711-782）の「魔訶止観補行伝弘決」といった、当時の最高峰の学術書の影響が見取れます。道を修めるよう努力し国の宝（国宝）となる人を目指しましょうと述べられていて、国宝たる人物に重要な3つの要件が簡潔に示されています。

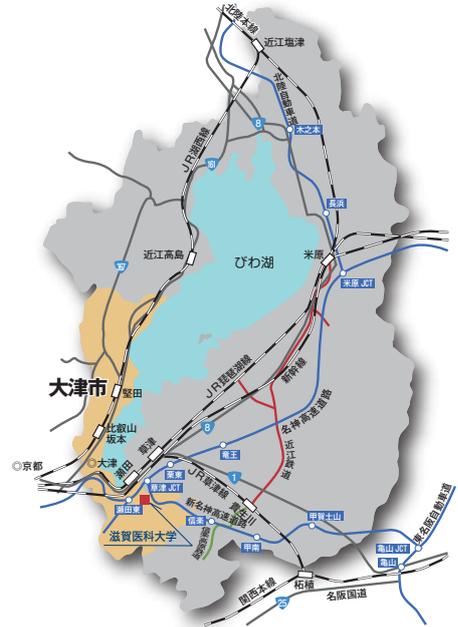
- 「一隅を照らす」行動のできる人（照于一隅）
「目立ったり人から評価されたりすることを求めるのではなく、社会の片隅であっても自分にできることを一所懸命することで、最も社会に貢献したことになる。」といった意味です。
- よく発言し、よく行動できる人（能行能言）
- 悪いことは自分に、良いことは他の人に与えることができる人（忘己利他）

この3つの概念は、その後の日本の職業倫理の形成や教育に大きく影響しました。特に、ここでご紹介させていただきたいことに、糸賀一雄先生（1914-1968）の「この子らを世の光に」という言葉があります。糸賀先生は戦後の障害者福祉で大きなお仕事をされ、びわこ学園の設立にご尽力されました。以下のように述べられています。

——「私たちはとても一介の庶民でしかないが、自分の属している家や仕事のほんの一隅を照らしつづけることはできそうである。そこに希望があり、勇気がわいてくる。どんな障害をもっている人でも、その人の全存在で、それなりの一隅を照らすのである」（「福祉の思想」NHKブックス）。

滋賀医科大学の学生は比叡山の山頂の慰霊塔をお参りし、学章に代表されるような滋賀県の歴史の流れの中で勉強をさせていただいています。もし、お時間があれば、延暦寺・根本中堂で1200年前から絶やされることなく灯されている法燈をご覧になられて、「一隅を照らす」という言葉に思いをはせていただけたらと思います。ちなみに滋賀医科大学は、ちょうど琵琶湖の対岸の方向に位置します。

文：滋賀医科大学臨床教育講座 准教授 辻 喜久



琵琶湖から見る比叡山



滋賀医科大学霊安墓地



延暦寺・根本中堂

開催報告

学生の皆さんが、医師や看護師としての自分の将来像を探すことを応援する

第9回「卒業後の自分を考える連続自主講座」 『仕事・家庭・子育て 私のワークライフバランス』

6月2日（金）に、**木築 野百合医師**（きづきクリニック院長・滋賀医科大学医学科5期生）、**石原 仁看護師**（栗東市訪問看護ステーション）、**大黒 典子看護師**（訪問看護ステーションさと信楽サテライト）、**林 みさ子看護師**（湖南市立石部医療センター）をお迎えしお話をいただきました。

木築 野百合医師の研修医時代から、滋賀医科大学外科病棟で共に勤務されていた看護師さん方との絆は強く、お互いに助け合いながら人生を歩んでこられた体験談を明るくお話をいただき、参加された学生さんたちに将来への力強いエールを送っていただきました。

♪参加された学生さんからの声♪

- ・「女性の医師だから検診に来た」とおっしゃった患者さんのお話を聴いて、私もそのような医師になりたいと思いました。バリバリのキャリアで働いている医師・看護師のお話を聴けるとても良い機会でした。また機会があったら参加したいです。
- ・自分が不安に思っていたことを実際にした女性医師・看護師の方にお聞きできて良かったです。また、キャリアについて生の声を聞くことができ、色々な選択肢もあるんだなと思い、出会いを大切にしようと思いました。



開催報告

がん征圧・患者支援チャリティーイベント 「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017滋賀医科大学」

10月8日（日）～9日（祝日）、滋賀医科大学構内の中庭を会場に、学生によるリレー・フォー・ライフが開催されました。

この催しは、がん患者さんやそのご家族さんを支援し、地域全体でがんと向き合い、がん患者さんを支え、がん征圧をめざすチャリティーイベントで、昨年から滋賀医科大学を会場として開催されています。

滋賀医療人育成協力機構では、少額ですが学生さんの活動費の援助をさせていただきました。



開催報告

学生の皆さんが、医師や看護師としての自分の将来像を探すことを応援する

第10回「卒業後の自分を考える連続自主講座」 『地域医療が面白いーボクがこの道を選んだ理由ー』

11月28日（火）滋賀医科大学において、今回の講師には、滋賀県で地域医療に携わる、**切手 俊弘先生**（彦根市立病院 診療局主任部長（在宅医療担当））と**中村 琢弥先生**（弓削メディカルクリニック 滋賀家庭医療学センター 教育部門担当指導医、診療部門長（滋賀医科大学医学科27期生））をお迎えし、学生時代から現在までの歩み、仕事のやりがいなどをお話いただきました。

参加者からは、「視野が広がったと感じる」「有意義な時間になった」などの声がありました。また、多くの質問があり、関心の高さがうかがえました。



♪参加された学生さんからの声♪

- キャリアの多様性について多角的に学ぶことができました。
- 地域医療、家庭医療について様々な形で関わっている先生方のお話が聞けてとても勉強になりました。
- 視野が広がったと感じています。公衆衛生の勉強も頑張ります。
- 現在これからの行く先について悩んでおり、今回の講座でちょうど自分が考えていたことを伺うことができ、非常に有意義な時間となりました。
- キャリアについて考える機会になりました。興味のあることをすることも大事だが、その時々の人との関係で決まることもあるとのこと、自分にできることを、その時その時でしっかりやっていくことが大切と感じました。
- それぞれの先生が歩んでこられた道を知ることはとても興味深かったです。
- 先生が実際に歩んできたキャリアについて、直接お話を伺うことができ良かった。
- 外科、内科の両方の経験を生かして、在宅医療を実践されている切手先生のレクチャーは大変ためになりました。
- 先生方の働き方や生き方を知ることができて、参考になりました。

開催報告

世界に羽ばたく医師シリーズ
第3回を開催しました

1月6日（土）13時から滋賀医科大学において、「世界に羽ばたく医師シリーズ 第3回」を開催しました。

Columbia University Medical Center（コロンビア大学メディカルセンター）の島田 悠一先生を講師にお招きし、先生の実体験に基づく米国での卒後研修や臨床現場の日米の比較に関するご講演をいただきました。

続いて、外国人模擬患者さん、最新式シミュレーターを用いての英語医療面接/初期診療を、英語/日本語を織り交ぜながらご指導いただきました。参加者の皆さんが目を輝かせておられたのが印象的でした。

今回は滋賀医科大学のみならず北陸を含めた他大学の医学生、研修医、指導医の皆様にご参加いただき、「とても勉強になった」「また開催して欲しい」といった声が多く寄せられました。



参加者の感想(抜粋)

- 米国医療について、日本との比較も含めて分かりやすくご説明いただいてから、問診を実際に行う機会があったことと、島田先生によるフィードバックをもらったことがたいへん勉強になった。
- 充分以上の情報、適切な準備、和やかな雰囲気、全てがとても良かったです。
- 海外で働くハードルなど全体像がイメージできた。
- 1年生には難しかったが、勉強する気があがった。
- 前に出ていた学生の方を含め、非常にレベルが高く勉強になった。

開催報告

「滋賀医科大学献体団体 しゃくなげ会総会で講演」

滋賀医科大学では毎年10月に、この1年間に系統解剖・病理解剖・法医解剖させていただいた方々への感謝と慰霊の解剖体慰霊式が執り行われ、慰霊式終了後には献体団体しゃくなげ会総会が開催されます。

10月26日に開催されました今年のしゃくなげ会総会では、機構の活動に当初から御協力いただいている多くのしゃくなげ会会員の方々へ感謝の気持ちをこめ、滋賀医療人育成協力機構理事の**埜田 和史先生**（滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門 准教授）が「滋賀医科大学ではどのような医師・看護師を育てようとしているのか」と題して講演をさせていただきました。

会員の皆様には熱心に聴講いただき有難うございました。



開催報告

2月8日開催の 「里親・プチ里親」対象FD研修会・意見交換会

研修会では、滋賀医科大学臨床教育講座 **辻 喜久准教授**から「医学教育分野別評価を受審して」と題して、昨年11月に受審した、日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価の報告と、滋賀医科大学の対応について講演いただきました。

引き続き和やかな雰囲気の中、出席者の自己紹介などを含め意見交換や懇談が行われました。

滋賀医科大学地域里親支援事業として、里親（県内で活躍されている医療従事者）・プチ里親（地域の皆様）・里子（この制度の登録学生）が交流し、医療人としての心構え、地域医療の現状などを伝える場として毎年1回開催されているこの活動を、滋賀医療人育成協力機構は毎年応援しています。



入 会 ・ ご 寄 附 の ご 案 内

1年間の活動を実施していくための必要経費は年間550万円程度が必要ですが、この経費を皆様からいただいた会費とご寄附 並びに「地域医療を担う医師等育成事業補助金」で賄わせていただいています。

出費がかさむ折とは存じますが「地域の医療を担う医学生・看護学生の育成支援」へのご支援をいただける方々のご協力をお願いいたします。

会員は

会員の種類		会 費	入会金 (初年度のみ)
正 会 員	個 人	年会費 2,000円 + 寄附金 3,000円以上	5,000円
	団 体	年会費 5,000円 + 寄附金 5,000円以上	10,000円
賛助会員		毎年 1,000円以上 できましたら 3,000円以上	

ご寄附・賛助会費をご入金された方は「税制上の優遇措置」【寄附金控除、または寄附金特別枠控除（税制控除）】を受けることができます。

ご入金された方には「寄附金の受領書」を郵送しますので大切に保管いただき、確定申告時には、「申告書」に「寄附金の受領書」を添え最寄りの税務署にご提出ください。

なお、詳細につきましては、最寄りの税務署にお問い合わせください。



『家庭医体験学習』のご案内

滋賀医療人育成協力機構では、滋賀県内の各地域で働いている家庭医の仕事を体験する「家庭医体験学習」に取り組んでいます。いままで大学病院だけでは、なかなかイメージすることのできなかった「家庭医」という医師像を、少しでも具体化することに役立てればと願っています。

参加対象者は、地域医療に興味のある医学生で、研修施設において1日以上、体験学習を行います。詳しくは、事務局までお問い合わせください。

めでる誌上に、 貴病院や企業からのメッセージを載せませんか！

ご希望の方は、滋賀医療人育成協力機構にお問い合わせください。

編集後記



8月22日・23日の猛暑の中、大津・湖南地域の夏の宿泊研修で訪問させていただきました。びわこ学園医療福祉センター草津のセンター内の見学では、いたる所で介護をされている方の気持ちを推し量る職員の温かさが伝わってきました。大津赤十字病院の説明・見学では、この病院は災害拠点病院であるという職員の意気込みを感じました。

市内散策からは、昔から交通の要地であった大津地域の歴史と文化の足跡に触れることができました。

今回も、多くの医療関係者の方々のご協力のもと、学生達に学び多い研修の場をご提供いただきまして有難うございました。

今回のスポットライトでは、今回の宿泊研修でこれからの高齢化社会を取り巻く課題と、大津市での地域連携の取り組みについてご講演いただきました、西山順博医師の在宅医療実践について取り上げました。

「人」シリーズでは、卒業後の自分を考える連続自主講座でお世話になりました、彦根市立病院の切手俊弘先生のお話を取り上げました。

学生は、県内各地を訪問し地域のみなさまとの交流を通して、多くのことを学ばせていただいております。今後ともご支援、ご協力をお願いいたします。

最後に、めでるの発行が少々遅れましたことをお詫び申し上げます。



NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでる」vol.13

発行：平成30年3月1日
編集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構
所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
TEL：077-548-2802 FAX：077-548-2803
Email：satooya@belle.shiga-med.ac.jp
URL：<http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/>